

「新熊谷ブランドの創造」

熊谷で暮らすことの価値を実感できるまちづくり

熊谷市長 小林哲也

小林市長が語る

2期目の決意



生年月日：昭和34(1959)年4月5日生まれ(66歳)
家族：妻・母・長男・長男の妻・孫・次男・長女
趣味：ラーメン食べ歩き
経歴：熊谷市長(1期)・元埼玉県議会議長

はじめに

市民の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

私は、一般の市長選挙におきまして、無投票当選を果たし、11月6日、第6代熊谷市長に就任いたしました。

再び市政を託されたことは、私にとって何よりの光栄であり、同時に、これからの熊谷市の未来を、市民の皆様とともに築いていく重大な責任を改めて実感しております。

これまでの成果と今後への決意

前任期の4年間、私は、「新熊谷プライドの創造」を政策理念に掲げ、これまで先人たちが築き上げてきた歴史や文化、自然などの大切な地域資源を守り、いかにしながら、その先の未来のまちづくりにつなげるための様々な政策の種をまいてまいりました。

特に、全国的に人口が減少し、地域活力の衰退が危惧される中、すべての世代にとつて、安心して心豊かに暮らせるまちづくりに取り組んできたところです。



高齢者等の買い物支援のための移動販売事業の推進 (R6.8)



東京2025デフリンピックPR (R7.9)

その上で、地域の宝である子どもたちの健やかな成長や子育て世代への積極的な支援はもとより、子どもの未来を見据えた投資となる取組を進め、未来に希望を持ち、笑顔で暮らせるまちをつくること、これこそが、私に課せられた最大の使命であると、改めて認識しております。

「新熊谷ブランドの創造」を掲げて

これまで種をまいてきた政策の多くは、ようやく芽吹き始めたところであり、その芽を確かな実りへと育てあげなくてはなりません。

今こそ、「新熊谷ブランドの創造」を政策理念に掲げ、「内外に誇れる熊谷」や「熊谷で暮らすことの価値」が実感できるまちを目指し、これまで準備してきた諸施策を一つずつ確実にかたちにしていくことで、まちの変化や生活の変化を実感していただけるように、全力で市政運営に取り組んでまいります。

変化の激しい、難しい時期だからこそ、多様なご意見を丁寧に伺い、これまで培ってきた知識と経験を最大限にいかし、国、県、近隣自治体との連携を図りながら、本市のシティプロモーションのキャッチコピー「進め、明日のその先へ」を合言葉に、市民の皆様と共に、未来を見据え、未来の熊谷のまちづくりに、誠実に、着実に取り組んでまいります。

引き続き、皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます、就任に当たりましての挨拶といたします。



熊谷さくら運動公園子供広場じゃぶじゃぶ池オープン (R7.7)



シティプロモーション
ロゴマーク

新7つの基本政策

1 親子の笑顔が輝くまち創り

次世代を担う子どもたちの健やかな成長を支えるため、子育て世代の負担軽減、子育て施設の利便性向上により、安心して出産・子育てができる環境の充実を図ります。また、子どもたちの学びの環境を充実させるとともに、知・徳・体のバランスの取れた学力を育みます。

- 保育料完全無償化の継続
- 小・中学校体育館の空調設備整備の推進
- 安心・安全な学校給食の提供（新熊谷学校給食センター整備、学校給食費の保護者負担軽減）など



2 安心・安全なまち創り

関係機関と連携し、医療体制の充実を図るとともに、市民の健康寿命の延伸や健康づくりを推進します。また、治水対策を含めた自然災害への対策の強化を図ります。

- 自主防災組織などへの支援
- 新星川改修の推進、利根川・荒川の堤防強化要望活動の推進 など

3 誰もが健康で活動し支え合う優しいまち創り

子どもから高齢者、障がいがある方など、すべての人に優しいまちを目指すとともに、地域において、助け合い支え合う社会の実現を目指します。



4 スポーツと伝統文化により人々が行き交うまち創り

プロスポーツチームなどとの連携や市民のスポーツ活動の促進を図ります。また、文化や伝統を継承し、郷土愛の醸成を図るとともに、まちの魅力として発信することで、交流人口・関係人口の拡大を目指します。



郷土の偉人・日本最初の公許女性医師 荻野吟子

5 元気な産業が生まれ育つまち創り

農業生産基盤整備の推進や担い手の支援、地産地消とにぎわいの創出など、農業の振興を図ります。また、地域経済や起業・創業の支援、企業誘致の推進など、市内産業の活性化を図ります。さらに、農・商・工の熊谷ブランド化を支援します。



(仮称) 道の駅「くまがや」(R10.3 供用開始)

6 次の世代を見据えたまち創り

市民生活に必要な都市基盤を整備します。また、首都高速道路の延伸となる新大宮上尾道路に接続される熊谷渋川連絡道路の早期事業化や、利根川新橋の建設実現によるアクセス向上を図ることで、北関東エリアにおける拠点性の確立を目指します。



広域道路ネットワークのイメージ図

また、熊谷駅を核として、星川をいかしたまちなかの魅力向上や、熊谷駅南口エリアの活性化、さらに、市役所本庁舎と県の産業振興機能を併せ持った北部地域振興交流拠点の整備により、まちなかへの新たな人の流れをつくり出します。加えて、スマートシティの取組を推進し、市民生活の利便性向上と新たな経済活動の創出を目指します。

- 熊谷駅南口周辺の再整備の促進
- 新市民体育館を含めた荒川公園周辺再整備の推進
- 良好な空間形成を目指す荒川かわまちづくりの推進 など



熊谷駅を核としたまちなかの取組 イメージ図

7 持続可能なまち創り

健全財政の維持、効率的な組織づくり、行政DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進など、行財政改革を着実に推進します。また、道路、橋りょう、上下水道などの生活インフラの計画的な維持管理を含む、次世代のための公共施設マネジメントを推進します。さらに、再生可能エネルギーなどの活用促進により、地球温暖化対策を推進します。